



学校だより (6月号)

自ら学び、心豊かでたくましい実践力をもった子どもの育成

太宰府市立水城西小学校 Tel 923-2559 文責: 教頭 比嘉 一人

子どもへの最高のプレゼントは・・・

長期休暇明けや週のはじめは、話しかけてくる子どもたちが増えます。「ゴールデンウィークに〇〇に行って…」や「週末に家族で〇〇して…」など、出かけた先や心に残った出来事を伝えたくてしょうがないといった様子です。学校から家に帰った時にも、家族に学校での出来事を伝えようとするお子様もいると思います。子どもたちにとっては、話をすることで先生や家族に受容してもらい、安心することができます。つまり、**「受容」は、子どもたちにとって大切なプレゼント**になるのです。

さて、ここからは、過去に実施された実験を紹介します。13世紀に神聖ローマ皇帝のフリードリヒ2世が行ったとされる実験です。彼は、「人間が教育を受けなかった場合、自然にどの言語を話しはじめるのか」を知りたいと考えました。そこで、乳児を集め、乳母や世話役に「一切の言葉をかけず、目も合わせず、食事と睡眠、入浴の世話だけをする」ことを命じました。つまり、生きていくための最低限の条件を整えた上で、一切の関わりをもたないようにしたのです。さて、結果はどのようになったでしょうか。「何の言語も覚えない?」「他人との関わり方に問題が見られるようになった?」…いえ、もっと恐ろしい結果でした。何と、対象者である全員が幼いうちに亡くなってしまったのです。この実験はとても恐ろしく、現在では絶対に認められることのない内容ではありますが、私たちに2つのことを教えてくれます。1つは、**今生きている私たちは、必ず誰かの愛情を受けてきた**ということ。2つは、**子どもの成長の土台には、親からの声かけや笑顔など、情緒的な関わりが不可欠**であるということです。

また、1950年代にイギリスの精神科医ジョン・ボウルビイは、愛着理論を提唱しています。その理論では、何も怖いことがなくて安心している時には周囲へ関心が向き、少し不安が高まると養育者に近づいて守られたいと考えることや、安心が戻るとまた探索へ出ていくことが指摘されています。つまり、**子どもは安全・安心な居場所を確保することができれば、様々なことに挑戦するようになる**のです。お子様に「新しいことに挑戦してほしい」、「粘り強さを身につけてほしい」といった願いがある場合は、「受容」という愛情を注ぎ、子どもにとって安全・安心な居場所を作ることが大切です。

年度初めから学習参観や運動会など、保護者の皆様に来校いただく機会が何度かありました。子どもたちは、お家の方に頑張っている姿を見せようと努力してきました。そんな子どもたちへの最高のプレゼントは、「受容」です。この機会に新しい学年になって頑張っているお子様の様子を振り返っていただき、最高のプレゼントを改めて届けてほしいと思います。また、イベントの機会だけでなく、日常的に子どもたちと会話を楽しみ、**日常的に「受容」というプレゼントをお子様へ届けていただくと、学校という外の世界で子どもたちは挑戦を続け、成長することができる**と思いますので、ご協力をよろしく申し上げます。

フリードリヒ2世の疑問

フリードリヒ2世の疑問 (1194-1250)

実験の実施: 言葉なき養育

通常のアプローチ
「一切の言葉・笑顔・目線を禁止」
ただ食事入浴のみ

予期せぬ結果

「子供たちは、言葉を話す前に、全員亡くなった」

「情緒的な関わり」が生命に不可欠だった

① 安心しているとき
「外の世界を確かめたい」という探索へ

② 少し不安なとき
「近づいて守られたい」という接近へ

③ 安心が戻ると

愛着理論のエッセンス

ジョン・ボウルビイ (精神科医)
イギリスの精神科医、ジョン・ボウルビイが提唱

- ・子どもの行動は2つの心の流れで調整されています
- 「外の世界を確かめたい」【探索】
- 「近づいて守られたい」【接近】

安心と探索の循環

「心の安全基地」

6月の主な行事予定	7月の主な行事予定
1日(月) 全校朝会・JRC加盟式 スクールカウンセラー来校 2日(火) 登校班班長会 3日(水) 引き渡し訓練 5日(金) 委員会活動 9日(火) 歯科検診(4年) 新体力テスト 10日(水) 内科検診 新体力テスト 15日(月) 読み聞かせ(1, 2, 4年) スクールカウンセラー来校 16日(火) 歯科検診(3年) 17日(水) 内科検診 18日(木) 歯科検診(5年) 19日(金) 田植え 22日(月) 田植え(予備日) 23日(火) 歯科検診(1年) 24日(水) 24(にし)の日 26日(金) 代表委員会 30日(火) PTA救急救命講習	1日(水) たんぼぼマーケット 3日(金) 委員会活動 8日(水) たんぼぼマーケット 9日(木) 学校運営協議会 スクールカウンセラー来校 10日(金) クラブ活動 13日(月) 読み聞かせ(1, 2, 6年) 15日(水) 学校保健委員会 17日(金) 全校朝会(前期前半終了日) 給食あり 18日(土) ~ 8月24日(月) 夏季休業 22日(水) ~ 28日(火) 個人懇談
	8月の主な行事予定
	25日(火) 全校朝会(前期後半開始) 給食なし 26日(水) 給食開始 31日(月) 読み聞かせ(1, 2, 5年) スクールカウンセラー来校

「もみまき集会」～本年度の米づくりスタートです!!～

5月15日(金)にもみまき集会を実施しました。米づくりは、もみまきから始まります。ひと粒のもみからは、2000粒程度のお米ができるそうです。お茶碗一杯には3000～4000粒のお米があるので、たった2粒のもみからお茶碗一杯分のお米がとれることとなります。子どもたちは、一粒一粒のもみを大切にしながら、もみまきを行いました。さて、本年度の米づくり活動で大切にしていることは、一つ一つの行事の成功を目的とするだけでなく、行事を通した子どもたちの学びの充実を図ることです。そこで、社会科で米づくりについて学ぶ5年生を中心にして、「総合的な学習の時間」のカリキュラムに位置づけ、**子どもたちが主体となって米づくりを進めていく**ことにしました。例年は1,2年生が行っていたもみまきについても、5年生が主体となって関わりました。

昨年度のもみまき集会では、教師が1,2年生の子どもたちにもみまきの仕方を教えていました。今年度は、1,2年生のグループに5年生も割り振り、それぞれのグループで5年生がもみまきの仕方を教えました。1,2年生にもみまきの仕方を教えるためには、当然もみまきについて詳しくならなければなりません。そのために、例年米づくりに協力していただいている中嶋さんをはじめ、JAの方々にもゲストティーチャーとして学校においでいただき、米づくり全般やもみまきについて教えていただく時間をとりました。もみまき集会でそれぞれが説明しないとイケません



ので、子どもたちは自分事として米づくり活動を捉え、しっかりメモをとりました。そして、1,2年生にとってわかりやすいように、イラストやキーワードを用いながら説明するための資料を作成してきました。

これらの活動の背景には、「もみまき集会を成功させる」という目的意識や、「1,2年生にわかりやすいように」という相手意識が働いています。また、「一人ひとりが説明する」というアウトプットに向かって**主体性も高まります**。その結果、もみまき集会が1,2年生の経験になるのはもちろん、5年生の充実した学びの機会になったと思います。当日は、地域や保護者、PTA、だるま会、JAの方々など、様々な方に来校いただきました。おいでいただいた方々からも、本年度のもみまきについて称賛のお言葉をいただきました。ご支援していただいた皆様、本当にありがとうございました。